

# **「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)兵庫教区総合基本計画**

兵庫教区では、宗門の「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画をもとに以下の計画を推進していきます。

## 1. スローガン

「結ぶ絆から、広がるご縁へ」

## 2. 重点プロジェクト

重点プロジェクトの実践目標

### ①宗門重点プロジェクトの実践目標

＜貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～＞ 一子どもたちを育むために一

## 3. 推進期間

2020（令和2）年度から2023（令和5）年度までの4年間

なお、現場において早急に取り組むべき課題は地域差もあり様々です。そのため、従来通り各組において独自に定めた実践目標を設定していただき、宗門全体の課題と併せて取り組んでいただくことも可能です。

## 4. 教区の取り組み

### ◆御同朋の社会の実現をめざして

「兵庫教区 同朋講座における差別発言事件」並びに「兵庫教区内より発信された連続差別投書事件」からの学びとして、私たちの宗門の差別意識や体質が、いまだ抜きがたく存在している現状に対して、差別・被差別からの解放をめざし、兵庫教区内のすべての僧侶・門信徒自らが「御同朋の社会を実現」するための主体者として取り組んでいかねばなりません。

組同朋講座の開催については、これまで通り各組において開催をいただくよう教区より奨励していきます。兵庫教区内で惹起した2つの差別事件だけでなく、宗門内で、あらたな差別事件が惹起していく中で、未だ克服すべき課題が山積しています。

また、国が部落差別の存在を認め、差別解消を推進しなければならないと明記された「部落差別解消推進法」が施行され限られた期限内での取り組みではなく、継続的な取り組みが必要とされています。

#### ◆非戦平和・環境（原発事故等）、自死問題、ハンセン病問題など、さまざまないのちに関する課題への取り組みについて

専如門主のご親教『念仏者の生き方』において「今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積していますが、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明煩惱にあります」とお示しくださっています。

兵庫教区では、過去の歴史に学びながら、現代社会に生きていく念仏者として、非戦平和・環境（原発事故等）問題、自死問題、ハンセン病問題など、さまざまないのちに関する課題に人びとの苦悩に寄り添いながら取り組んでいきます。

非戦平和推進検討委員会で作成した啓発資料等を活用するとともに、映画上映会、研修会を開催し、戦争をひきおこす、すべての行為を見逃さない取り組みを進め、平和を希求する念仏者の生き方とは何かを問う取り組みを進めます。

ハンセン病問題では、兵庫教区内にある2つの療養所、長島愛生園・邑久光明園の入所者の平均年齢が2019年で86歳となり、行政や療養所でも対応が迫られているところですが、宗教者が果たすべき課題や役割も多く、療養所や入所者と緊密な関係を保ちながら具体的な対応や啓発活動を進めていく必要があります。

こうした課題に具体的な実践によって取り組んでいくことで「自他ともに心豊かに生きることのできる社会」をめざします。

#### ◆防災システムを構築し災害時対応に取り組む

兵庫教区では、2019年度まで重点プロジェクトとして情報共有システムを利用し、教区内全組が状況を把握し、互いに災害支援が行える組織をめざし取り組んでまいりました。

今後は、経常運動として防災担当者が各組の団体ボランティア登録の代表者となってボランティア活動に対する情報共有し災害時に迅速な対応ができるよう防災担当者の防災システム研修会を定期的実施するとともに、組の防災システムを含む災害対策研修会を奨励していきます。

## ◆過疎化や核家族化による社会構造の変化による伝道教化の状況について

過疎化や核家族・社会構造の変化によって伝道教化が困難な状況にあり、どのような取り組みが必要とされているのか注視していく必要があります。単身高齢者や老夫婦世帯などが増加し日本の全世帯の約半数が高齢者世帯となっています。このことは、伝道教化が困難な状況であるだけでなく、永年ご門徒として聴聞されてこられた方が、み教えやお寺との関係の伝承ができていないために、葬儀やお墓など浄土真宗ではない形になるケースもあるようです。

過疎地域における宗教などの伝承は、その地域、村全体で高齢者を中心に継承されてきましたが、情報化社会といわれながらも、核家族化社会になり、親から子へ子から孫へという生活・宗教・知恵などの伝承がなされなくなった現代社会において、これまでの寺院活動では青少年にアプローチできない側面があります。

また過密地域では、お寺との関わりをもっていない、若しくは、お寺から月参り等はするものの門信徒同士のつながりが無い状況になっているように窺えます。

その結果、組・寺院では、教化組織・団体を構成する方々が高齢化し次世代へつないでいくためには、これまでの方法だけでは難しいというのが現状です。過疎・過密地域共に教化伝道活動が困難な状況であるためどのような取り組みが必要とされているのか注視していく必要があります。

親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要に向けて、私たちが今できる取り組みを各々が精一杯努める事で、すべての世代にみ教えを伝えていく営みを初めていかなければなりません。そのために必要な具体的に実践できる活動に速やかに取り組んでいきます。

以 上